

「経済的理由による高校中退」…九州で世論化が前進

授業料無償化からの5年間

高校授業料無償化が始まった2010年度から5年間に、経済的理由で高校中退を余儀なくされた生徒が全国で5385人、九州で少なくとも754人、九州で少なくとも約100人、経済苦で学びたくても学べない子が多数おり、授業料免除や現行の奨学金給付金制度では、親の所得格差が子の教育格差を生む「貧困の連鎖」を断ち切れていないことが浮き彫りになった。

九州754人

就学支援なお課題

県	2010~14年度の中退者	2014年度の長期欠席者
福岡	281	65
北九州	61	4
佐賀	67	5
長門	62	1
大分	29	1
熊本	72	4
鹿児島	182	20
計	754	98
合計	5385	2044

文科科学省は毎年度、全国の国公私立高校を対象に、中退や長期欠席の理由を調査。経済的理由をはじめ、中退は学業不振など8項目、長期欠席は不登校など大分県以外から回答を得て集計したII表参照。14年度は、経済的理由による中退者が全国で1208人、九州は福岡47人▽佐賀1人▽長崎9人▽熊本27人▽大分9人▽宮崎5人▽鹿児島80人一の計178人。長期欠席者は九州で少なくとも計98人、2県を除く九州の公立立別で中退者は公立28人、私立114人、長期欠席者は公立52人、私

立46人となっている。高校では、授業料以外に教材費や修学旅行費の積み立て、通学費などが必要。教育費以前に、家計を支えるために働かざるを得ないケースもあるという。複数の自治体の担当者は「『経済的理由』でなくても、貧困が要因となって『学業不振』などに分類される事例も多い」と話した。14年度から高校授業料無償化制度に所得制限が導入され、同時に低所得層の私立高生への就学支援金は加算。返済不要で用途を限定せず、授業料以外の修学旅行費や教材費などに充てられる高校生等奨学金給付金制度も始まったが、なお課題は多い。(坂本信博)

高校中退「経済苦」5385人

どんこ舟に乗って、集まった地元ファンに笑顔で手を振る寄英菊岡(手前左)と祐末夫人(同右) =5日午前9時25分、福岡県柳川市(撮影・金田達依)



14年度から高校授業料無償化制度に所得制限が導入され、同時に低所得層の私立高生への就学支援金は加算。返済不要で用途を限定せず、授業料以外の修学旅行費や教材費などに充てられる高校生等奨学金給付金制度も始まったが、なお課題は多い。(坂本信博)

西日本新聞

ながのばあちゃんの食術指南
2016年 3月6日 (日曜日)

福岡病院

精神科 心療内科 内科 歯科 院長 東野也
福岡県福岡市花見が浜1丁目5番1号
0940(42)0145(代)

県	朝	昼	夜	あす
福岡	80	80	30	20
北九州	21	13	10	19
佐賀	50	60	30	20
長門	20	12	10	18
大分	60	60	30	20
熊本	20	12	10	19
鹿児島	80	60	30	20
計	90	50	30	20
福岡	90	50	30	20
北九州	19	12	10	21
佐賀	90	50	30	20
長門	19	15	10	19
大分	90	50	30	20
熊本	19	15	10	20
鹿児島	70	30	10	20
計	19	14	10	17
福岡	70	70	30	20
北九州	18	13	10	22
佐賀	60	60	30	20
長門	16	9	10	20
大分	60	60	40	20
熊本	60	60	30	20
鹿児島	21	11	10	21
計	80	40	30	30
福岡	19	14	10	21
北九州	80	20	30	20

2016年3月6日(日)西日本新聞 朝刊

Yahooの2016年3月7日14:00代に「経済的高校中退5,000名」の見出しでトップニュースとして上がったことで、気が付いた方も多いと思います。西日本新聞3/6の1面に掲載された記事です。公立高校を含めた調査を元にした記事で、就学支援金制度の更なる拡充を訴える内容となっています。常勤講師問題をはじめ、福岡県私学助成をすすめる会の運動と発信も、西日本新聞の動きの契機になっていると思われます。

14年度から高校授業料無償化制度に所得制限が導入され、同時に低所得層の私立高生への就学支援金は加算。返済不要で用途を限定せず、授業料以外の修学旅行費や教材費などに充てられる高校生等奨学金給付金制度も始まったが、なお課題は多い。(坂本信博)